

目標達成計画

作成日:平成 28年 3月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常災害時に入居者が避難する場合、正面玄関以外の3カ所の勝手口は間口が狭く、なおかつ段差が大きい。(スロープ状になっていない)特に夜間は介護者が一人しかいないために入居者全員のスムーズな非難が難しく、守れるはずの命が守れないかもしれない。また、施設から外に出てもアスファルト部分は限られているために、車いすの入居者が安全な場所まで自力で移動するのは難しい。	24時間利用者に安全に入居していただくためには、非常災害時の体制が整備されていてこそだと考えている。そのためには現在の施設の防災環境について、利用者及びご家族への十分な説明を行い、不安を取り除くために更なる防災力強化を図らなければならない。	避難経路を確保するために、勝手口から外側に向けて段差を解消してスロープを設置する事は、特に介護人員の少ない夜間においては有効であるといえる。しかし、スロープを設置する事で平常時に(特に徘徊の多い)利用者が屋外に出ることが容易になりすぎるために、見守りの観点からすれば逆にリスクが高まる事が予想できる。人間の心理として明確な段差よりも、わずかな段差の方がかえって危険に対する意識が薄くなるために、転倒などの事故が起きやすい。そのバランスを勘案しながらスロープの設置については検討したい。	12ヶ月
2	23	学習療法や日々のケアの中では利用者の思いやニーズを聞き出しているが、センター方式の記録の不十分さがあり、職員全員に周知できていない。	センター方式の記録ができ、利用者の思いやニーズを職員が理解できる。	職員によるセンター方式の勉強会を行う。グループホームにおけるセンター方式の必要性や記録方法についての理解を深める。	12ヶ月
3	10	家族は遠方や仕事等の理由で、運営推進会議等の参加や訪問も少ない状況であり、お願いはしているが家族会の立ち上げには至っていない。	家族会の立ち上げの実現に向けて、くり返しお願いをし、取り組んでいく。	会議や行事等、ご家族の参加の機会を確保し、心理カウンセラーによる仲介も継続しながら、家族会の立ち上げに向けてくり返しお願いをし、実現に向けて取り組む。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。